

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西区馬郡町 (有) 鈴清鉄工所様工場	階数	地上2階建て
建設地	静岡県浜松市西区馬郡町773-1の	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2023年1月10日
敷地面積	6,145 m ²	作成者	野中 巨樹
建築面積	2,746 m ²	確認日	
延床面積	3,075 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	建物と敷地周囲の離隔・緑地の配置、建物外観の調和等に配慮した。また、省エネ性能を大きくクリアした。	その他 0
Q1 室内環境	評価対象外	Q2 サービス性能 PS等の将来的に使用目的に応じて間取りを変更できない部分を設けないことで空間のゆとりを確保した。
Q3 室外環境(敷地内)		建物を道路境界線から距離をおいて配置させることにより、周辺への圧迫感を軽減させるよう努めた。建物の外観は落ち着いた雰囲気にして周辺のまちなみに調和させた。また、敷地周辺部に緑地帯を設け良好な景観形成に
LR1 エネルギー	省エネ性能: B I E=0.31	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材は分別可能とした。また、断熱材は発砲材を用いた断熱材を使用しないことで地球温暖化低減に配慮した。
		LR3 敷地外環境 廃棄物処理不可抑制への取り組みとして、鉄スクラップの推計、分別回収容器の設置及びび有価物の計画的な回収を計画している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	西区馬郡町 (有) 鈴漕鉄工所様工場新築工事	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0 /5		ふつつ		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8 /5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.2 /5		ふつつ		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.1 /5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつつ 3点以上	がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.0	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)				
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①~③: 評価対象外 ④: 建築基準法に定められた基準をクリアする強度を有する</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤: 外構緑化指数21% ⑥: 空地率56%、高温排熱の排出無し</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦: 省エネ法評価対象外 ⑧: 特になし ⑨: BEI=0.31 ⑩: 特になし</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪: 節水機器を使用 ⑫: 躯体と仕上げ材が容易に分離可能 ⑬: 発泡剤を用いた断熱材不使用</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭: ライフサイクルCO2排出率67% ⑮: 卓越風向に対する建物の見附面積比42.08%</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ①</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ②</p> <p>Q-1 3 3.2 3.2.1 ③</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④</p> <p>2.2.2 ④</p> <p>2.2.3 ④</p> <p>2.2.4 ④</p> <p>2.2.5 ④</p> <p>2.2.6 ④</p> <p>Q-3 1 ⑤</p> <p>3 3.2 ⑥</p> <p>LR-1 1 ⑦</p> <p>2 ⑧</p> <p>3 ⑨</p> <p>4 4.1 ⑩</p> <p>4.2 ⑩</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪</p> <p>1.2.2 ⑪</p> <p>2 2.1 ⑫</p> <p>2.2 ⑫</p> <p>2.3 ⑫</p> <p>2.4 ⑫</p> <p>2.5 ⑫</p> <p>2.6 ⑫</p> <p>3 3.1 ⑬</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬</p> <p>3.2.2 ⑬</p> <p>3.2.3 ⑬</p> <p>LR-3 1 ⑭</p> <p>2 2.2 ⑮</p>	<p>② 屋光利用設備</p> <p>③ 屋光制御</p> <p>④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>⑩ モニタリング</p> <p>⑩ 運用管理体制</p> <p>⑪ 節水</p> <p>⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>⑪ 材料使用量の削減</p> <p>⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>⑬ 消火剤</p> <p>⑬ 断熱材</p> <p>⑬ 冷媒</p> <p>⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>		
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			2.8
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯: 建築基準法に定められた耐震性を有する ⑰: 建築基準法に定められた耐震性を有する。地下へ設置しない</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯</p> <p>2.1.2 ⑯</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰</p> <p>2.4.2 ⑰</p> <p>2.4.3 ⑰</p> <p>2.4.4 ⑰</p> <p>2.4.5 ⑰</p>	<p>⑯ 耐震性</p> <p>⑯ 免震・制振性能</p> <p>⑰ 空調・換気設備</p> <p>⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>⑰ 電気設備</p> <p>⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>⑰ 通信・情報設備</p>	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱・⑲: 評価対象外 ⑳: 階高平均3.7m、壁長さ比率0.08</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑: 敷地外周はメッシュフェンスとし、見通しをよくして防犯性に配慮した</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲</p> <p>3.1.2 ⑲</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑</p>	<p>⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>⑲ 階高のゆとり</p> <p>⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
	"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)			2.1
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤・⑥: 上記参照 ㉒: 建物を敷地境界線から離し、周囲に緑地を配置</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑫: 特になし ⑮: 上記参照</p>	<p>Q-3 1 ⑤</p> <p>2 ②</p> <p>3 3.2 ⑥</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑫</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮</p>	<p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>② まちなみ景観への配慮</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>		